

## 1 9.41 試薬・試液

### 2 以下の試薬・試液を次のように改める。

3 エレウテロシドB, 液体クロマトグラフィー用  $C_{17}H_{24}O_9$  白  
4 色の結晶性の粉末で、メタノールにやや溶けにくく、水に溶  
5 けにくく、エタノール(99.5)に極めて溶けにくい。融点：  
6 190～194℃。

7 **確認試験** 本品のメタノール溶液(1→200000)につき、紫外  
8 可視吸光度測定法(2.24)により吸収スペクトルを測定する  
9 とき、波長263～267 nmに吸収の極大を示す。

10 **純度試験** 類縁物質 本品1.0 mgを移動相10 mLに溶かし、  
11 試料溶液とする。この液1 mLを正確に量り、移動相を加え  
12 て正確に50 mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶  
13 液10  $\mu$ Lずつを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラフ  
14 ィー(2.01)により試験を行う。それぞれの液の各々のピー  
15 ク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液のエレウ  
16 テロシドB以外のピークの合計面積は、標準溶液のエレウテ  
17 ロシドBのピーク面積より大きくない。

#### 18 試験条件

19 検出器、カラム、カラム温度、移動相及び流量は「シゴ  
20 カ」の確認試験の試験条件を準用する。

21 面積測定範囲：溶媒のピークの後からエレウテロシドB  
22 の保持時間の約3倍の範囲

#### 23 システム適合性

24 システムの性能は「シゴカ」の確認試験のシステム適合  
25 性を準用する。

26 検出の確認：標準溶液1 mLを正確に量り、移動相を加  
27 えて正確に20 mLとする。この液10  $\mu$ Lから得たエレ  
28 ウテロシドBのピーク面積が、標準溶液のエレウテロ  
29 シドBのピーク面積の3.5～6.5%になることを確認  
30 する。

31

32